

全校で取り組むと良いこと①「対話や話し合いの力を伸ばすために」、②「子どもの意識がつながる単元にするために」をお伝えしてきました。今回は③として「子どもの意欲を高めるために」という点についてお知らせいたします。

全校で取り組むと良いこと③～子どもの意欲を高めるために (子どもが「調べたい」「考えたい」「話し合いたい」となるように)

他の言葉で置き換えると…「子どもに**問いが届く**」「**関心が高まる**」「**自分ごと**になる」など

○導入のひと工夫を

例1 振り返りの紹介から入る。

(本時につながる疑問、子ども同士の意見のズレ など)

例2 写真やグラフの一部を隠す。昔と今の写真を比べる。

例3 地域の方の生の声を伝える。(※)

(悩んでいる、反対意見がある、苦労している など)

Aさんは〇〇と言っている、Bさんは□□と言っている。

反対の考えだね…。両方の思いを聞いてみんなはどう思う? など

※地域の方との交流は、「調べる」ところでも大事になります。見学やゲストティーチャーなどがベストですが、難しい場合はオンラインやビデオなどの活用も良さそうです。

○子どもの予想や疑問を楽しんで

- ・「多分こうかな?」「～かもしれない」「どうして～なんだろう?」のように予想をしたり疑問を考えたりしている姿は…

→「教材に対して自分から近づいていこうとしている」「過去の学習や生活経験と結びつけようとしている」意識の表れ。

=「自分ごと」に近づく。 今後の学習の「見通し」にもつながる。

- ・まずは、突拍子もない予想や疑問でも楽しく気楽に言い合える場をたくさん。そして、既習や生活、友達の考えと結びつけていたら大きく価値づけを。

○時々、発問や資料でゆさぶる

- ・子どもが、いい意味で「迷う」「困る」ように。
- ・分かったつもりになっている子どもを、あえてゆさぶる。

→他の角度や他の立場から考えたり、本当にそうかを立ち止まって考え直したり…

⇒**考えが深まる**

(例)「本当にそう言える?」「だったら〇〇の方がいいんじゃない?」

「困る人はいないの?」「それならなんで…しないの?」

「みんなはそう言うけど…それならこれはどう?」

「～なのに、どうして…なのかな?」 などなど